we support!
RQ 災害教育センター
MONTHLY
「東北に黒潮を送ろう！大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』かわらばん
しんぶん
「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である
FEBRUARY 11 2014

蓄積される『支援』の知恵 ② 現場スナップ

前号で『支援物資の送り方』について書きましたところ、宮城県のMOKさん（2012年処暑号で『海水浴場再開！』の記事を寄せていただきました）から、震災当時の支援物資仕分け作業の様子を写した写真とレポートが届きましたのでご紹介いたします。 ※コメントは一部再構成いたしました（文責より）

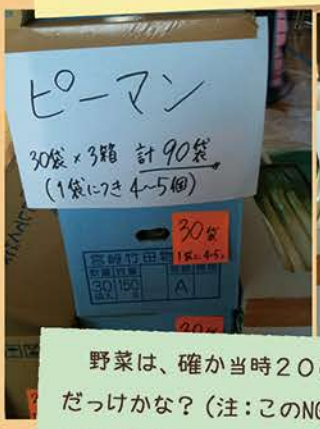
震災の時、「アジア協会」という関西のNGO団体の物資仕分けに行きました。

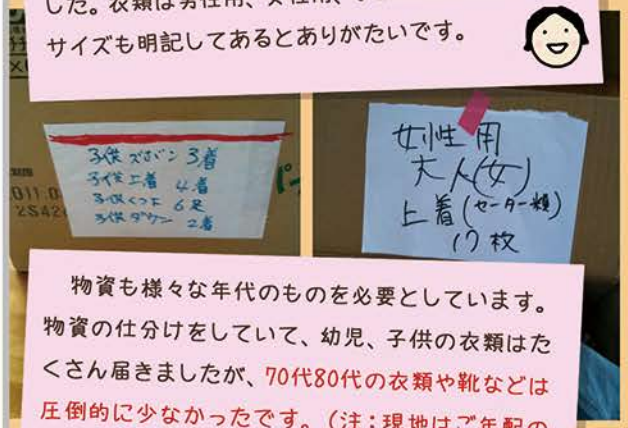
体育館一面にどかどか箱が山のようにあり、それをまずは分類別に衣類系、食料品系、生活用品系などグループわけをして、それらを次に何が何個入っているか、リスト作りをしました。

物資を宅配便などで被災地に直接送ると仕分けが出来ず管理しにくいです。最寄りの社会福祉協議会やNGO、NPO団体などのクッションを通して送れば、仕分けをしてもらえて有効に活用されます。

例えばシャンプーが必要なとき、リストに「南ブロックにある」と書いてあるのでそこへ取りにいく。体育館で作業する人が変わっても分かるように管理していました。

衣類の仕分けはとくに大変で、現地チームから何十代向けの衣類を明日にまで用意してくれと指示があり、何歳児向け、女性用、男性用の仕分けから、年代別、サイズ別にすぐとりだせるようにしていきました。衣類は男性用、女性用、子供用の他、M、Lなどサイズも明記してあるとありがたいです。





野菜は、確か当時２００食くらいつくってたんだっけかな？（注：このNGOでは炊き出し協力もしていた）ちょいと定かではないんですが、何日分足りるかなど、野菜の数は計算して使わないといけなかったので、箱の数だけでなく『中に何個入ってるか』まで細かくリスト化していました。（ちなみに、野菜の支援は現地に確実に届けられる場合のみのほうがいいです。）

物資も様々な年代のものを必要としています。物資の仕分けをしていて、幼児、子供の衣類はたくさん届きましたが、70代80代の衣類や靴などは圧倒的に少なかったです。（注：現地はご年配の方が多く集まる集落が多かった）また、スニーカー以外に長靴も必要です。

（男性女性どちらとも肌着は届いてますが、女性のブラジャーはカップサイズなど細かく分けられていますし、新品が必要です。女性下着メーカーさん現地入りしてサイズ測ってご支援して頂けませんか？声よ届け！）

あと、ご丁寧にお手紙なども添えられていたりしたのですが、作業に追われて読む時間がなく、せっかくのお気持ちを、と心苦しく思っていました。しかし、同じメッセージでもダンボール自体にマジックで東北がんばれ！どこどこから応援してます！みたいに直接書かれてるのは、とても励みになりました。

これだと作業しながら目に止まるので、膨大な作業の合間にも熱い気持ちをたくさん頂きました！

感動！

仕分け作業をしながらこのようにツイッターでつぶやいたところ、すぐに多くの人によって拡散され、下着ブランド『ピーチジョン』の野口社長にまで声が届き、実際ツイッターで野口社長とダイレクトメッセージをやりとりさせていただきました。野口社長も実際に現地に支援に入られていて（私の活動していた地域とは合致しなかったようなんですが）被災地支援活動に多大なお力添えをいただきました。

東日本大震災では、SNSの情報が「生きた現地の声」として活用されていて、ネットワークの力をたいへん頼もしく感じました。（MOK談）

<MOKのオマケコメント> 物資の仕分け中、沖縄からの小学生の寄せ書き幕を見て大笑いした。みんな、ちばりよー！とかなんくるないさ～って書いてある。沖縄方言全開の寄せ書きに、さすがにこっちの子達は意味わからんわけよ。お渡しする時、何て意味か教えておかないとね。沖縄キッズ達の方言に笑いまくった。

レポートありがとう！

文責：井上文子（西表島エコツーリズム協会　東北復興支援担当）